

知事定例記者会見

日 時 令和8年5月 12 日(火) 14:00～14:34

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

それでは、本日は私の方から 2 点、ご報告をさせていただきます。

1点目は、「静岡県誕生 150 周年記念アンバサダー」についてでございます。

1976 年(正しくは、「1876 年」)、明治 9 年にですね、足柄県と静岡県、浜松県が統合いたしまして、現在の姿の静岡県が誕生してから、今年は 150 周年という節目の年となります。

明治 9 年からの本県の成り立ちや、これまでの足跡について、改めて県民の皆様の幅広い理解促進を図り、郷土への誇りや愛着のさらなる向上に繋げるため、これを契機として、賛同企業や市町、県が委嘱している学生特派員等と連携し、本県が誕生して 150 周年を迎えることや、本県の魅力などの情報を、広く発信をしてまいります。

この取組を進めるにあたり、本県出身で、歌手・俳優として幅広く活躍をされている、SixTONES(ストーンズ)の松村北斗(まつむらほくと)さんに、「静岡県誕生 150 周年記念アンバサダー」にご就任していただくことになりました。

松村さんは芸能活動を通じて、若い世代をはじめ、多くの方々に夢や感動を届けられており、150 周年の取組や、本県の様々な魅力を、県内外に広く届けていただける強い発信力の持ち主として、大いに期待をしております。後日、私の方から松村さんに直接、委嘱状をお渡しをし、「静岡県誕生 150 周年記念アンバサダー」として、本県のPR活動などを行っていただきます。

1 点目は以上でございます。

2 点目は、企業版ふるさと納税を活用した子育て世帯への食料支援の開始についてでございます。

企業版ふるさと納税制度を活用して寄附された食料品を、子育て世帯へ配布する取組を、本日から開始いたします。

物価高騰の影響により、十分に食料を買えない状況にある子育て世帯が増えている一方、フードバンク等へ寄せられる寄附食料品の量が減少しております。本事業では、企業版ふるさと納税の仕組みを活用して、食料品の寄附を募り、お寄せいただいた食料品を、ひとり親家庭等の生活困窮にある子育て世帯に配布いたします。

配布に合わせて、子育て世帯が利用可能な支援制度や、相談窓口に関する情報を

提供し、支援が必要な世帯を把握することにより、適切な支援につなぐ体制を構築してまいります。

本事業の趣旨に賛同いただける全国の企業様から、本県の、支援が必要な子育て世帯へ、多くの寄附をお願いを申し上げます。

私からは以上でございます。

(幹事社)

幹事社の静岡朝日テレビです。

ただいまの知事の発表について、質問のある社は挙手をお願いします。

(記者)

テレビ静岡です。よろしくお願いいたします。

松村さんのイメージと、どんなことを期待されてるか教えてください。

(知事)

はい。松村さんもお存知、大変人気があるですね、現在ご活躍の方でありますので、やっぱり静岡県が今、節目の150年を迎えているということでもありますとか、静岡県が非常に魅力に富んだ地域であるということですね、ぜひ広く発信をしていただきたいと思います。

(記者)

静岡第一テレビです。

私も記念アンバサダーの件なんですけども、具体的にですね、こういったPR活動をされていくご予定なのか、言える範囲で、もし決まっていることがありましたら教えていただけますでしょうか。

(知事)

これは、広報課からお願いします。

(広報戦略課 金田課長)

広報戦略課の金田です。

具体的にはですね、先ほど知事がおっしゃっていただいたような、本県の魅力を届けることになります。SNS等をですね、使って発信なんかをしていただきたいと思います。詳しくはまた今後ですね、あの、決まり次第、皆さんの方に提供させていただきます。

(記者)

すいません、何かイベントを行ったり、その場に出席されたりだとか、そういったことのご予定とかは、お考えですとか、ありますでしょうか。

(広報戦略課 金田課長)

委嘱状の方の交付式をやるというところで、知事から委嘱状はお渡しいただきます。

(記者)

それ以外は特に。

(広報戦略課 金田課長)

はい。

(記者)

分かりました。ありがとうございます。

(記者)

SBSと申します。

すいません、すごく細かい確認だったんですけれども、アンバサダー就任自体は、これ、何日付のことになりますでしょうか。

(知事)

これまだ、はい。

(広報戦略課 金田課長)

広報戦略課 金田です。

具体的な日付はですね、今ちょっと、ここでは申し上げられませんので、また県政の記者の皆様には、委嘱状の交付式の具体的な日時や会場の方を、また提供させていただきますので、それでご承知おきいただければと思います。

(記者)

では、現時点では就任したわけではなくて、今後するという認識でよろしいですね。

(広報戦略課 金田課長)

そうです。はい。

(記者)

はい。ありがとうございます。

(幹事社)

特になければ、幹事社質問に移ります。

1つ目です。リニア中央新幹線に関してなんですけれども、4月29日に川勝平太前知事が静岡に来て、リニア工事に言及しました。

「対話は終わっていないと、前提条件がまだ出ていない。政治的判断のその前に、倫理的判断というものがきっちりと共有されていないといけないと思う」などと話されました。これについての受け止めと、そもそも川勝前知事のリニアへの取組をどう評価しているのか、伺わせてください。

(知事)

はい。私も報道等で知っているだけでありまして、詳細についてはですね、承知しておりませんので、コメント、あの、知事の発言についてのコメントは、ここでは差し控えたいと思いますが、ご案内のとおり、もう既に専門部会において、きちっとした手続きのもとにですね、対話が終了しておりまして、先日、関係市町の首長の皆様にもですね、JR東海的环境保全措置をご説明をいたしまして、ご了承を得ているというところでございます。

あの、前知事のリニアに対する評価でございますけれども、評価というよりも、あの、前知事時代にですね、科学的な議論が必要だということで、県の専門部会を設置をされまして、3分野28項目に課題を整理をされたものですね。そっくりそのまま、私が引き継ぎまして、これまで丁寧な議論を積み重ねて、対話が終了したということでございまして、それに尽きるというふうに思います。

(幹事社)

ちょっとすいません。これについて、さらにちょっと聞かせていただきたいんですけども、重ねてになってしまうんですが、あの、対応については終わっていないというふうなお話をしていることに関しては、どういうふうに感じていらっしゃいますか。

(知事)

私もちょっと、あの、直接お話をしてないので、ちょっと理解はしかねますけれども、対話については、もう終了しているということについては、皆さんもご承知のとおりだというふうに思います。それ以上でもないし、それ以下でもないというふうに

思います。

(幹事社)

これについての、知事の回答について、質問のある方いらっしゃいますでしょうか。じゃあ2つ目の質問に移らせていただきます。浜岡原発に関してです。14日に浜岡原発の原子炉が全て停止してから、15年が経ちます。

これについての受け止めと、中東情勢など、エネルギー事情が緊迫化する中で、知事としての原発についての考え方を伺わせてください。

(知事)

はい。浜岡原発につきましては、15年前のですね、福岡、失礼、福島第一原発の事故を契機にですね、同型の原子炉であるということで、国の指示によって停止をしているというふうに認識をしております。それが今、現状続いているということだろうというふうに思っております。

今回、中東のですね、緊迫した情勢の中で、今、非常にエネルギー状況も逼迫してるわけですが、やっぱり島国である日本にとってですね、このエネルギーの確保っていうのは、やっぱり重要であるということですね、改めて認識をさせられたんではないかなというふうに思いますので、やっぱりエネルギーの自給率を向上させていくということについてはですね、これを国の責務として、しっかりやっていただきたいと思いますし、その1つの選択肢として原子力もあるかというふうに思います。

原子力につきましてもですね、今あの、世界の中でですね、いわゆる非常に安全性に富んで、設置が柔軟な、小型の軽水炉というものの開発競争が行われておりまして、実用化に向けて、もう目前に迫っているというふうに思いますし、あるいは、フュージョンエネルギーですね、いわゆる核融合ですが、これはもうちょっと実用化は先になりますけれども、いわゆる夢のエネルギーと言われるですね、こうしたものが実用化をされていけばですね、日本のエネルギー事情も大きく変わると思いますので、日本としてもですね、ぜひそうした新しい技術開発について、しっかり取り組んでいただきたいと思いますし、静岡県の場合はですね、浜松ホトニクスとEX-Fusionがですね、今、レーザーフュージョンのですね、開発を行っておりますので、県としても、しっかり支援をしていきたいというふうに思っております。

(幹事社)

はい。これについての回答について、質問のある社いらっしゃいますでしょうか。

(記者)

SBSと申します。

現状、浜岡原発を巡っては、データ不正問題を受けまして、事実上、再稼働の審査ってというのはストップしている状態です。再稼働、遠のいたと捉えることができると思いますけれども、知事としては、それ、どう受け止めているのでしょうか。

(知事)

これはもう、ご案内のとおり、基準地震動についてですね、不正があったということで、審査が今ストップしてまして、その間、いろんな原因究明とかですね、等々が行われておりますので、私どもとしてはですね、国の動向をしっかりと注視をしていきたいと思っております。

(記者)

改めて、全国的には原発再稼働という流れもありますけれども、必要性について知事としては、どう考えているのでしょうか。

(知事)

これは1つの選択肢ということで、エネルギーについては、やっぱり国が、まず総合的に考えていかなければいけませんので、私も国会議員時代にエネルギー政策に携わってきた者として、これはあの、国策として、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

(記者)

1月には新潟県で原発再稼働という動きもありましたけれども、その際は、基本的には住民投票などは行われず、県のトップの判断での再稼働という形になりました。

再稼働の判断は、最終的には何をもって、誰の判断をもって、なされるべきだと考えますか。

(知事)

これは今、ここで申し上げることではありませんし、新潟県のみならず、宮城県でありますとか、愛媛県でありますが、それぞれのところで、それぞれの判断をされておりますので、そういうことだろうというふうに思います。

(記者)

はい。逆に現時点でのお考えとして、判断をする上で、住民投票の必要性というのを感じるものでしょうか。

(知事)

今、ここでお話をすべきことではないと思います。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

他にありますでしょうか。じゃ、次に行きます。その他の質問のある社、挙手の上、質問をお願いします。

(記者)

静岡第一テレビと申します。よろしくお願いします。

先週、富士宮市の須藤市長がですね、閉山中の富士山の登山抑止ですとか、救助費用の有料化に関して要望に来られたということで、その、須藤市長の要望、3回目ということになりました。ここまでですね、何度もですね、地元から要望するという事案って、そこまで多くないと思いますけども、まず受け止めですね、お願いできますでしょうか。

(知事)

基本的には、今までと同様の要望でございました。それだけ、やっぱりあの、須藤市長としてもですね、危機感を持っているということだと思いますし、それは我々もですね、同様でございます。

(記者)

あの、その上でですね、改めて閉山期ですね、登山に関して、どのような対策が必要であるかですね、知事のお考えをお伺いできますでしょうか。

(知事)

まずは閉山時ですね、登山するということは原則禁止されてるということをですね、徹底してPRしていくということが必要ですし、そうした違法なですね、登山を行われないような対策をですね、今後いろいろ講じていくことに尽きると思います。一方で、抑止力の1つとしてですね、救助費用の負担をしてもらうということについては今、山梨県と鋭意、調整をしているところでございます。

以上でございます。

(記者)

あの、前回の会見等でも伺いましたけども、この期間にですね、改めて進捗等ありましたら教えてください。

(知事)

特に今のところまだ、あれですね、調整中です。はい、はい。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

テレビ静岡です。

今の第一テレビさんの質問に関連して、お伺いします。先日ですね、五合目で実際にあの、スキーをされて降りてきた方に取材をしたときに、どういった経緯で登るのかっていうところとか、いろんな対策何が必要ですかっていう話をしたときに、1つのアイデアとしては許可制にする、許可申請制にするっていうことをアイデアとしておっしゃっておられました。こういったことについては、知事、率直にどういふふうにお感じでしょうか。

(知事)

今でもそうなってるんじゃないかな。閉山中はあれだよ。すいません、ちょっと、はい、はい、ちょっと今、担当が今おりませんので、改めてご回答させていただきます。

(幹事社)

他にはどうですか。

(記者)

NHKです。お願いします。

あの、福島県の磐越自動車道でですね、新潟市の高校生たちで、部活動の遠征中で、マイクロバスに乗っていたということで、21人が死傷する事故がありました。この事故を受けてですね、県内でも部活動の遠征でバスを使う学校なんかもあるかとは思いますが、あの、県の対応があればお聞かせください。

(知事)

はい。これにつきましてはですね、公立学校に対しても、私立学校に対しても、改め

てですね、安全指導を徹底するようにですね、通達を発したところでございます。
しっかり県としても、安全管理をチェックしていきたいと思います。

(記者)

通達は、これはいつ行われたものでしょうか。

(知事)

本日ですね、はい。本日発出したものでございます。

(記者)

加えてあの、関連してですね、加えて、今の県立の学校だとかですね、県内でそういう、遠征の際の生徒の移動のあり方について、どのような実態になっているのかというですね、そういった把握を進めていらっしゃるんですね、さらなる対策の必要性というところなんかはいかがでしょうか。

(知事)

教育委員会来てるから、はい。では担当の方からお願いします。

(高校教育課 鈴木人事監)

教育委員会高校教育課の鈴木と申します。お願いします。

遠征時の移動方法の実態について、現段階では県教委では詳細は把握はしておりません。この、国の動向も踏まえて、学校教育活動中の安全確保について、さらなるルール化ですとか、調査が必要かどうか、また検討してまいります。

(記者)

ありがとうございます。改めてあの、知事についても、この辺のですね、対策の必要性ですね、例えば今、国の方でも、こう移動に関しては、統一的な具体的なルールが示されていなくて、各自治体であったり、学校に任されてるというような現状もあるかと思うんですけども、その辺の対策の必要性について、知事としてはどのようにお考えになっていらっしゃるんですか。

(知事)

改めてやっぱり、我々としてもですね、しっかりそうした安全対策、安全管理を徹底するように指導してまいりますけれども、1校1校、あるいは現場がですね、しっかりそういうのを、それに対応していくということが必要だろうというふうに思います。

(記者)

ありがとうございました。

(記者)

読売新聞と申します。2点伺います。

1点目があの、小説家ですね、鈴木光司さんの件でお伺いたします。小説家、浜松市ご出身のあの、鈴木光司さんがお亡くなりになりました。知事とは、小学生時代からのお付き合いだと承知しております。今回の、お亡くなりになられたことの受け止めと、あと、どんな方であったか教えていただければと思います。

(知事)

はい。あの、私にとっては最も付き合いの長い友人でございまして、私は、小学校5年生の時に、広沢小学校というところに転校したんですけども、そのときにすぐ、鈴木光司、鈴木康友なんで、目の前にいて、まずは転校したんでね、誰か1人友達を作ろうということで声をかけたのが、鈴木光司さんです。以来、60年近い付き合いになりますけれども、本当に良い友人でございました。ずっと小学校から中学校、高校、大学とですね、全部同じ道を歩んでまいりましたので、お互いにその成長過程とかですね、都度都度のいろんなことをですね、お互いに知る仲でございますけれども。私、あの、政治家を目指すと、彼はですね、ある時から小説家を目指すということで、常にそうしたことをですね、お互いに話しながらですね、励まし合ってきたということですし、非常に明るい、前向きな、あの、性格なんで、小説家になってもですね、確か5年、5、6年はですね、本当にそれだけでは、生活できないような、やっぱりあの、書くことってというのは厳しいので、やっぱり、「リング」、「らせん」がヒットして、大きく飛躍しましたけれども、そうしたあの雌伏の期間もですね、非常に前向きにですね、明るく活動してましたので、不遇の時代も、奥さんが働いて、本人が子育てをするっていうようなね、そういう時期もありましたけれども、腐ることもなくですね、非常に努力家で、前向きな性格だったというふうに思います。本当に惜しい人物を亡くしたと思います。

(記者)

ありがとうございます。

すいません。話題変わりますが、もう1点伺います。今、県内各地で中東情勢の悪化に伴いまして、石油製品のナフサの輸入が滞っている関係で、自治体が指定するゴミ袋が生産ができないような状態になってるところもあります。県内各地で状況はバラバラですけれども、県として今、どのくらいの自治体で、こういった状況が

起きてるのか、もし把握されていればお伺いしたいのと、あと、これについてどう対応していきたいか、あの、知事のお考えがあればお伺いします。

(知事)

これは担当来てる。

(産業政策課 伊藤課長)

産業政策課の伊藤です。

今のあの、ゴミの袋についてはですね、特段、今、産業政策課の方では把握していないんですけども、ゴミのあの、廃棄物リサイクル課の方で、もしかしたら把握しているかもしれませんので、ちょっとまた確認をして、お答えしたいと思います。

(記者)

度々で申し訳ありません。SBSです。

お話が戻ってしまって、福島事故の件だったんですけども、県外のことではありますけれども、大変痛ましい事故でした。知事としての受け止めに改めて聞かせてください。

(知事)

もう本当に、起こってはいけないような、あの、事故だというふうに思いますし、あの、報道等でですね、見聞きするだけではありますけれども、ドライバーの方がですね、短期間の間に、何度も事故を起こしているという状況の中で運転をされたということで、これは本当に、まさにあってはならないことだと思いますし、二度とこういうことがないようにですね、我々も徹底していかなきゃいけないというふうに思います。

(記者)

自治体によっては、完全に公立の学校の県外遠征を、練習試合において禁止している自治体もあります。知事としては、改めてそのようなスタンスというか、どういうふうな対策をとるべきだと、現状お感じでしょうか。

(知事)

これは個々の学校、教育委員会の指導方法によりますので、一概に私は、ここで決めることはできないというふうに思います。はい。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

日本経済新聞です。

地方税収のですね、偏在是正の件で、ちょっとお伺いしたいんですけども。地方税収の偏在是正の件。先月ですね、埼玉、千葉、神奈川の3知事がですね、財務大臣と総務大臣に、税の偏在是正を求める申入れをしています。一方で、税収が突出している東京都の小池知事はですね、一般財源1人あたりの額は全国水準、全国平均と同水準だということを理由として、偏在是正の必要性を認めておりません。この点について、あの、静岡県の財政立て直しに注力してる知事としてですね、この偏在是正の議論を、どのようにご覧になっているか、ご所見を伺わせてください。

(知事)

これはもう、知事会では毎回議論になることでございまして、まさに1対46っていうような格好になっておりますので、明らかにこれ、偏在は存在しているというふうに思いますし、東京都だけでなくですね、23区の財政状況を見ても、非常にですね、やっぱり特定の区になりますと、膨大なですね、財政調整基金を溜め込んでいったりですね、明らかにこれは、偏在が生じているのは事実だと思いますので、これは何らかの措置が必要だというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

静岡新聞です。

すいません、ちょっと話、戻ってしまうけど、鈴木光司さんの関係で、知事と鈴木光司さん、お付き合い長いと思うんですが、その中でもこう、思い出に残っているエピソードとかあったら、ちょっと二、三教えていただきたいんですけども。

(知事)

ああ、思い出に残っているエピソードですか。そうですね、まあやっぱり、あれですね、一番は、私のあの、高輪の下宿にですね、来て、清林寺というお寺で、なんと磯田道史さんも、その後、あそこに住んでいたことがあるようですけれども、僕の住んでいた部屋の周りってお墓なんですよ。そこで、ある日、光司がやってきてですね、「リング」の原点となる怪談話をしましてね、これ面白いってことで、それで2

人でですね、これちょっと、他の連中に聞かせて、どういう反応するか見てみようということで、実は夏休みに、南箱根のダイヤモンドっていうところの貸別荘にですね、男4人で行って、そのときに僕と光司君で、掛け合いですね、話をしたら、一緒に行った2人がですね、本当に震えあがっておりましてですね、そのときに、鈴木光司君は、これは将来、絶対小説のネタになるなと確信を持ったそうです。もちろん、そのときは話ですけども、その後、時を経て、いわゆるあの、ビデオという形ですね、リングウィルスの、家の話に至るんですけども、そのリングの最初の場面ってのが、南箱根の貸別荘からスタートしてるということで、まさに彼の小説家人生の原点じゃなかったかなあという、そんな気がしますし、本当に私もあの、転校したときにですね、まずやっぱり転校して、何とかこの、転校先のクラスに溶け込むためにはですね、まず1人、友達をつくらなきゃいけないってことで、そしたら五十音順で並んでいたの、すぐ前にいた鈴木光司に声をかけてですね、そこから付き合いが始まったということで、本当に運命的な出会いだったなというふうに思いますし、彼の奥さんっていうのはですね、実は、私と一緒に転校してきた女の子ですね、5年1組というところに転校したんですけども、その一緒に転校したっていうのが、今の彼の奥さんでございまして、いろいろこう、思い出しますとですね、いろんな、いろんな合宿だとかですね、そういう学校の行事なんかあると、必ず一緒に参加をしてましたんで、本当に思い出しますとですね、思い出が尽きないっていう感じでございます。

(記者)

ちなみにあの、下宿は大学何年生ぐらい。下宿に来たのは大学生。

(知事)

ええとね。ええと、僕が三田に行ってからですから、私が大学3年生くらいですね。

(記者)

ちなみに一緒に慶応行こうっていうことを話して行ったわけでは別れない。

(知事)

じゃないですね。実は、こんなことばらしていいのかどうか、分かりませんが、彼、現役の時是最初、学習院か何か受けて、で、落っこってですね、浪人中にね、本格的に小説家を目指すって突然、何か僕に宣言をしましてね。当時、ええとね、浜松で浪人してたんですけども、お父さん、お母さんが旧の電電公社に勤めてまして、電報配達バイトをしてたんですね。私も高校時代、一緒にしたんですけど、あれって電報が溜まるまで、ずっと待合室で待ってるんで、で、彼、浪人中なんで、1人だ

もんですから、やる事がなくてですね、ちょうど太宰の「人間失格」が、お兄さんの本箱にあったんで、それを持って行って、読んで、改めて小説っていうのは、なんと面白いものかと、突然、俺は小説家になるって言い出してですね、それから凄まじかったですね。もう。彼の下宿行くとですね、もう行くたびに本が増えてるんですね、1日1冊本を読むと、受験勉強と併せてですね、読書をしまして、あの、決めたら、ものすごい努力家ですね。で、やっぱり小説家になるためにはですね、慶応の仏文科に行かなきゃいけないって言うんで、確かに二浪して仏文科に来たんですけれども、そこからシナリオセンターに通ったりですね、本当に彼なりに小説家になるための、ひたむきな努力をしてたというのは、よく覚えております。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

すいません、もう1問、うちからいいですか。すいません、大井川鉄道に関してなんですけれども、大井川鉄道井川線の運賃値上げ、まあ観光列車化ということが出てきました。住民や議員などからは、急な話で、というような意見もありましたけれども、この進め方については、どう見ていらっしゃるでしょうか。

(知事)

はい。まあ、あの、確かに唐突感は否めないんですけれども、やっぱり経営のことを考えたらですね、私は社長の判断にも一定の理解は示します。やっぱり大井川鉄道の持続的な経営を考えたらですね、やっぱり経営者としての判断ってのはそこにあるはずでありまして、ただあまりに唐突にですね、発表されたというところがですね、問題になったんじゃないかなというふうに思います。もう少し丁寧に発信をしてればよかったかもしれません。はい。

(記者)

そういう意味では、大井川鉄道の運賃の値上げ、あるいは観光列車化というのは、この政策については、理解できるところがある。

(知事)

そうですね。経営内容等について、つぶさに私もですね、決算書等を見てるわけはありませんけれども、確かに鉄道の維持っていうのは、非常にあの、大変なんです。私もかつて、天浜線の件でいろいろと悩みましたけれども、ですから、大井川鉄道、民間事業者として維持をしていくっていうのは、相当やっぱり、これは経

営的に大変ですので、これは一定の、私は理解をするべきではないかなというふうに思います。存続をさせるかどうかということも含めて考えた場合ですね、やっぱり経営が成り立たないと、やっぱり大井川鉄道自体の経営が行き詰まってしまうので、そこはしっかり、冷静に判断をしていくべきだというふうに思います。

(幹事社)

あの大井川鉄道に限らず、今お話があった天浜線もそうですけども、地方の鉄道だと人口減少の中で赤字になるところが多くて、行政の支援のあり方が問われるっていうところもありますけども、この金銭的な支援のあり方に関しては、どういうふうに。

(知事)

これは一概にですね、全てを論じることとはできないと。個々の路線についてですね、見ていかなければいけないと。どれだけ住民の生活のですね、便に供しているのか、どれだけ必要性があるのかっていう判断をしていかなければいけませんし、結局、資金を投じるってことは、これ税金でございますので、住民の皆さんが負担をしていくということでもありますので、そのあり方については、しっかり検討していく必要があると、私は思います。

(幹事社)

ありがとうございます。

すいません、最後にもう1つ。ちょっとリニアの件に戻ってしまうんですけども、前の川勝知事が、議論の中で最終的には、流れの中で、静岡の工区が今も着工していない、JRの着工時期も遅れている。このことに関しては知事の判断があって、前の知事の判断があって遅れているということになると思うんですけども、このことについては、どういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

(知事)

これは今ここで言ってもですね、覆水盆に返らずでございますので、やっぱり、きちきちと、私どもとしては手続を踏んで、やっぱり、リニアの推進とですね、毎回申し上げておりますけれども、大井川の水資源、南アルプスの生態系の保全と、これを両立させていくということで、進めているところでございますので、これ、いずれにしても、今後もですね、仮に工事着工になったとしてもですね、しっかりモニタリングをしていく必要がありますので、これからも継続をしていく案件だと思います。

(幹事社)

今までの、この議論は必要な議論だったということでいいでしょうか。

(知事)

はい、もうこれは、もう今更、戻っても仕方ないことでありますので、やっぱり前を向いて、やっぱり議論を進めていくべきだというふうに思います。

(幹事社)

ありがとうございます。

他にありますでしょうか。では以上で、記者会見を終わります。ありがとうございました。

(知事)

どうも、ありがとうございました。